



生木を裂く傷み

裂くような痛みなら人の例です。台風21号の風は猛烈で緑の葉も千切れて、停電もあちこちで発生しました。写真は外宮の道路脇での倒木です。猛暑に台風の頻発と、自然の荒々しさが近年特に激しいようです。昨年10月の台風21号も大型でした。来襲前の豪雨で玉城町の川の氾濫や山崩れがあったことを思い出します。風も雨もやさしいことを、私たちはつい望んでいないでしょうか。日常は制御可能な世界だと思ひ込んでいませんか。

普段から現代人はスパゲッティ症候群？

停電が続くと、オール電化に近い生活だと現実を思い知らされます。管につながれ命を長らえる様子をスパゲッティ症候群と言いますが、生活のための電気・水道・ガス・通信など、全て管を通して供給されている状況が、そうではありませんか。無線である携帯の充電に行列を作るのは笑えます。刃物一つ持って生きた時代からは遠くなりました。

終活って言葉は嫌ですね

就職活動を縮めた「就活」から始まる言葉には、他に婚活や妊活があります。思い通りにするため、ここは一番頑張りましょうという現代のノリの言葉かもしれません。エンディングノートと同時期に世間に広がった言葉ですね。さて自分の最期を演出しようと思っても、自作自演のようににはゆきません。ある意味、託す相手が必要だからです。普段から何を伝えるかと向き合う姿勢と、対話で合意に近づいていく態度が必要なのでしょう。

無人駅

ついに8月から近鉄宮町駅に駅員の姿が見えなくなりました。電車の運行も少しずつ間引かれていくと感じます。電子改札機があるという経営感覚なのですが、無人駅間をただ乗りしようという誘惑は抑えられないと危惧します。誰も見ていない場合でも、お代を支払う無人スタンドは今も健在なのでしょう。私たちがモラルを保つ道筋は、どのように引き継がれるのでしょうか。



カルテからのつぶやき 2

自然に枯れるような最期は自宅でも難しい時代かもしれませんが。まだ治療ができると思ふと、高齢でも延命技術が提供され得るからです。まだ生きていたいと望むと「治療に無理をしないで」と、医師も言い出し難いものです。まだ30歳台のその人はブログを駆使してました。末期がんと闘う毎日が記録してあり、今も削除されずに残されています。通院困難として紹介されたのですが、必死に遠くの主治医への通院を続けていました。自分を鼓舞するような明るい文面は、必ず「出会いに感謝、いつも笑顔で」と結ばれ、グルメの写真も添えられました。他人に見せるための文を追うと、行間が気になる私でした。様々な感情を反芻する沈黙や休息も必要だったのでとは思われます。現代は「元気に明るく」見えることや光を求められ、生物として影や潤いも必要な人間にとっては、辛いのではと感じます。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105

メール [homecare@kr.tep-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tep-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可